

平成 30 年度
北九州空港経営形態基礎調査

報告書

平成 31 年 3 月

北九州市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
第2章 北九州空港の現状と実績	2
1. 空港の概要と利用実績	2
2. 空港基本施設の状況	12
3. ターミナル施設の状況	14
4. 空港島内の施設	18
第3章 地域が期待する空港の将来像	19
1. 北九州空港の特徴と役割	19
2. 基礎需要量の想定	21
3. 必要となる空港施設・機能	26
4. 空港島内における多様な施設・機能	31
第4章 今後の空港運営手法に係る考察	39
1. 想定される空港運営手法	39
2. 福岡空港との関係	43
3. 事業性に係る考察	50
4. 方向性と課題	54
第5章 空港の将来像実現に向けての考え方	64
1. 空港発展のあり方	64
2. 空港運営手法と空港島利活用事業に係る考え方	65
3. 今後の進め方	68

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

LCCの拡大、訪日外国人の増大などの我が国の航空市場の動向、近隣の福岡空港の運営権事業への移行など北九州空港をとりまく環境の変化要因が生じている。そこで、これらの状況をふまえて北九州空港の将来像を導き、将来像の実現に向けた空港運営形態と指向すべき運営手法を検討するとともに、新たな空港運営手法導入による効果と可能性、空港経営改革に係り今後の地域として取り組むべき課題、理想的な進め方と想定されるスケジュールについて検討する。

2. 調査の内容

本調査の内容は以下のとおりである。

- (1) 北九州空港の現状と実績
- (2) 地域が期待する空港の将来像
- (3) 今後の空港運営手法に係る考察
- (4) 空港の将来像実現に向けての考え方

第2章 北九州空港の現状と実績

1. 空港の概要と利用実績

(1) 基本情報

- 北九州空港は北九州市の中心部から約15kmの周防灘海上に位置する、国管理空港である。関門航路及び苅田港の航路整備等により発生する浚渫土砂の処分場として埋め立てられる人工島を活用し、平成18年3月16日に開港した。

北九州空港の位置



出所：国土地理院ウェブサイトより作成

北九州空港の概要

開港日	平成18年3月16日
種別	国管理空港
設置管理者	国土交通大臣
位置	北九州市小倉南区空港北町
総面積	159.4ha
滑走路	2,500m×60m
運用時間	24時間
ターミナルビル	・旅客ターミナルビル（鉄骨造 地上3階建） ・貨物ターミナルビル（鉄骨造 地上2階建）
駐車場	・PFI方式により整備・運営 ・普通車1,780台、大型車4台、自動二輪車30台、身障者駐車場20台

出所：福岡県庁ウェブサイト、大阪航空局ウェブサイトより作成

- 空港連絡バスは、北九州市内（3方面：小倉都心部、黒崎副都心・折尾地区、JR朽網駅）と福岡市方面、別府方面の3系統が運行されている。なお、福岡市方面の運行は早朝深夜時間帯のみで、別府方面は一日1往復でウェブサイトでの事前予約が可能である。

空港連絡バスの経路



出所：北九州空港ウェブサイトより転載

(2) 路線形成状況

- ・現在、北九州空港においては国内線3路線、国際線6路線が開設されている。
- ・国内線では、羽田路線に2社が1日あたり16往復、その他名古屋/小牧（2019年3月31日からは静岡へと変更）と那覇に1日1往復が運航されている。使用機材はA320/B737-800が最大機種となっている。
- ・国際線では、釜山、務安、ソウル/仁川、台北/桃園にデイリー運航が行われている。使用機材はA320/B737-800が最大機種となっている。

運航状況

路線	航空会社	便数	機材	
国内線	羽田	スターフライヤー	11 往復/日	A320
		日本航空	5 往復/日	B737-800
	小牧	フジドリームエアラインズ	1 往復/日	ERJ175
	那覇	スターフライヤー	1 往復/日	A320
国際線	大連	天津航空	2 往復/週	A320
	釜山	ジンエアー	1 往復/日	B737
	仁川	ジンエアー	1 往復/日	B737
	務安	コリアエクスプレスエア	3 往復/週	ERJ145
		ティーウェイ航空	1 往復/日	B737
	台北	スターフライヤー	1 往復/日	A320

出所：北九州空港ウェブサイトより作成

2019年1月1日現在

(3) 旅客輸送実績

- ・北九州空港が新空港へ移転した以降の国内線旅客輸送は、移転直後の 2006 年度が 124 万人、2017 年度が 135 万人であり、11 年間で約 9%の伸びとなっている。最大路線である羽田路線は全路線旅客数の 96%を占めている。
- ・国際線旅客は 2016 年度まではほぼ 10 万人以下であったが、2017 年度ではソウル、釜山路線の旅客の増加により 28 万人に達した。2018 年度は 8 月までの期間で 13 万人（定期便とチャーター便の合計）、2017 年度同期で 11 万人であり、18%の増加となっている。

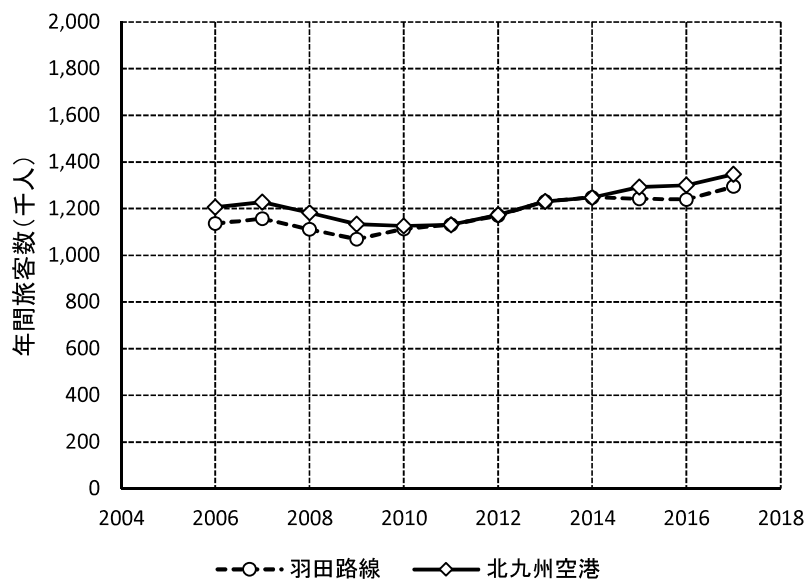
旅客数の推移

(単位：千人)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
国内旅客	全路線	1,240	1,228	1,182	1,133	1,126	1,131	1,173	1,231	1,248	1,292	1,348
	羽田路線	1,136	1,157	1,111	1,069	1,113	1,131	1,170	1,231	1,248	1,242	1,295
国際旅客	全路線	31	27	12	43	57	41	96	151	8	23	282

注 国際旅客は定期便とチャーター便の合計

国内全路線及び羽田路線における旅客輸送実績

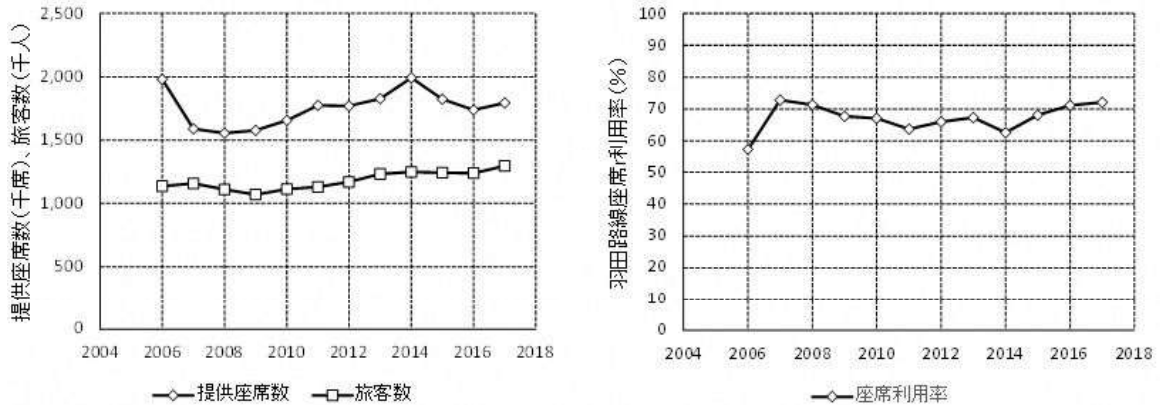


出所：北九州市データ

(4) 羽田路線における旅客数、提供座席数及び座席利用率の推移

- ・羽田路線における提供座席数は、新空港への移転直後及び 2014 年度に 200 万席の最大値を示している。2017 年度では約 180 万席となっている。
- ・羽田路線の座席利用率については、2014 年度に提供座席数が増加したことに伴い座席利用率が減少した。しかしその後は増加の傾向にあり近年では 70%をわずかに超える状況となっている。

羽田路線における提供座席数と旅客数、座席利用率の実績

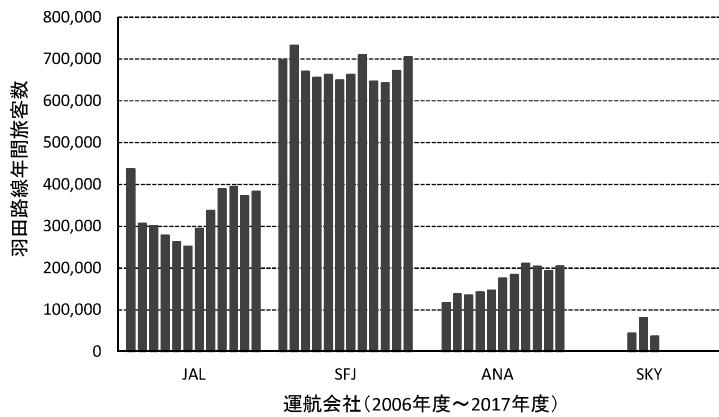


出所：北九州市データ

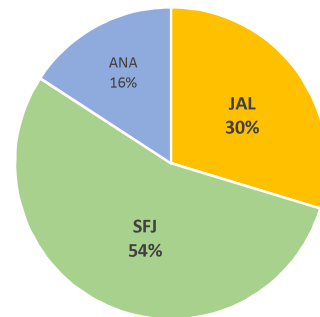
(5) 航空会社別国内線旅客輸送

- ・新空港開港以降の羽田路線における各社の輸送実績は、スターフライヤーが最も多く 60 万～70 万人となっている。
- ・スターフライヤー便は全日空との共同運航便となっており、全日空の輸送実績としては開港後順調に増加し現在は 20 万人程度となっている。
- ・日本航空は 40 万弱の実績となっている。

新空港開港以降の羽田路線の旅客輸送実績



羽田路線の航空会社別旅客輸送割合 (2017年度)

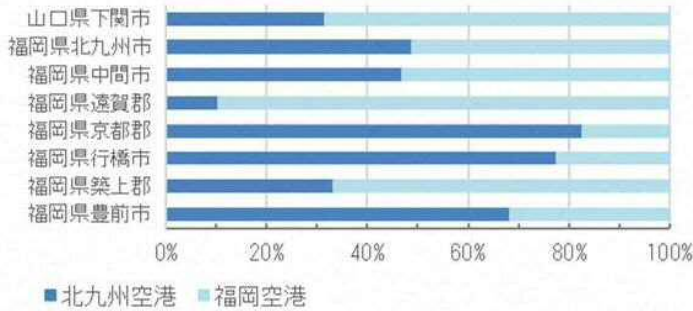


出所：北九州市データ

(6) 後背圏における利用空港の状況

- 北九州空港の後背圏である北九州市、下関市、京築、遠賀地域を発着する国内航空旅客の利用空港をみると、下表のとおりとなっており、中でも京築地域では、70%を超える市町域もあった。

北九州地域及び山口県下関市における利用空港の割合



注：各郡は以下都市で構成

京都郡	荻田町、みやこ町
築上郡	吉富町、上毛町、 築上町
遠賀郡	芦屋町、水巻町、 岡垣町、遠賀町

出所：平成 29 年度航空旅客動態調査、福岡県 県政概要（平成 30 年度）

- 訪日外国人については、平成 29 年度の外国人入国者数は全空港中で 9 位、地方空港としては鹿児島空港に次いで 2 位となっている。

空港別の外国人入国者数（平成 29 年度）

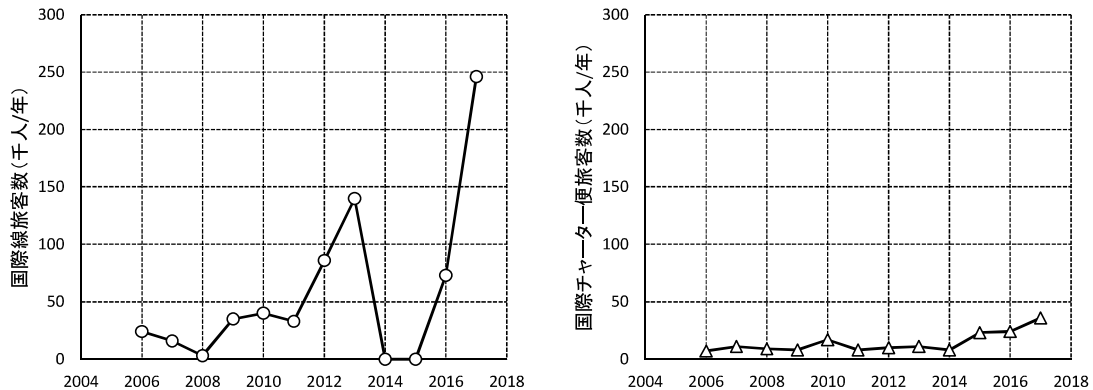
全国順位	空港	外国人入国者数	全国順位	空港	外国人入国者数
1	成田	7,857,561	6	新千歳	1,594,926
2	関西	7,503,275	7	中部	1,378,201
3	羽田	3,851,618	8	鹿児島	148,364
4	福岡	2,288,067	9	北九州	129,572
5	那覇	1,675,386	10	高松	117,831

出所：法務省「出入国管理統計」より作成

(7) 国際線輸送実績の推移

- ・国際旅客の実績は 2017 年度に大きく増加している。これはソウル/仁川及び釜山の韓国路線の増加によるものであり、特にソウル/仁川は対前年 5 倍以上の伸びとなっている。
- ・国際チャーター便の実績も近年増加する傾向にある。2018 年度も 8 月までの実績であるが対前年同期の実績を上回っている。

国際路線の旅客輸送実績



出所：北九州市データ

(8) 貨物輸送実績

- ・国内貨物については、2010 年度から 2014 年度には 1 万トンを超える取扱量があったが、2017 年度では約 4,000 トン程度の輸送実績となっている。
- ・国際貨物については、2013 年度から 2014 年度に約 4,000 トンの取扱量があったが、2017 年度では 1,000 トン余りに減少している。
- ・近年では、NCA（2013 年 5 月～2017 年 2 月：仁川・台北→北九州→成田）による定期運航が行われ、2018 年 6 月より ANA Cargo が那覇空港経由の国際貨物定期便（成田→北九州→那覇→アジア）が就航している。これにより、深夜に北九州空港を出発し、那覇を経由して早朝には、中国・アジアの主要 4 都市（シンガポール、上海、香港、バンコク）を結ぶ輸送ルートが形成された。この便は、成田空港から北九州空港への国内貨物も取り扱っている。
- ・関西空港以外の西日本では、国際貨物の専用機による定期便のある数少ないフレーター運航のある地方空港となっている。
- ・このほかに、おおよそ月に 1～2 便の国際貨物チャーター便が運航しており、一定の航空物流拠点としての役割を果たしている。

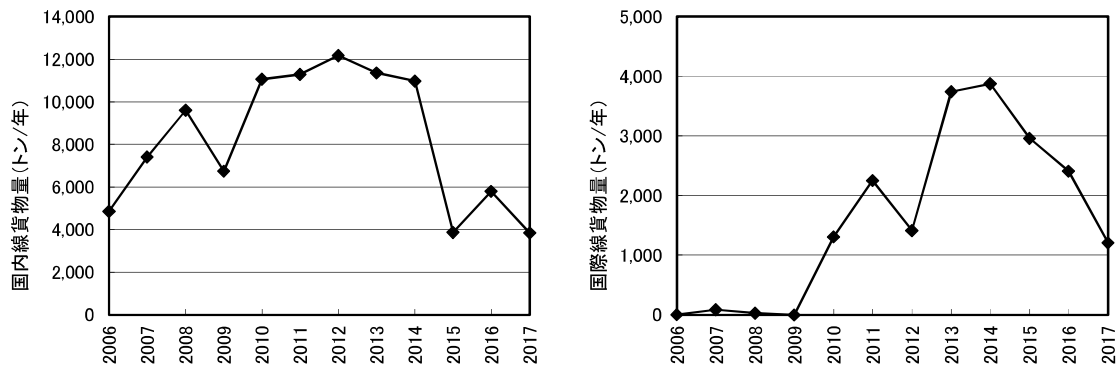
貨物輸送実績の推移

(単位:トン)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
国内貨物	4,859	7,408	9,612	6,747	11,058	11,289	12,168	11,355	10,972	3,860	5,790	3,837
国際貨物	1	84	28	0	1,305	2,253	1,412	3,740	3,873	2,958	2,407	1,203

出所：国内貨物…航空輸送統計年報、国際貨物…空港管理状況調査

貨物輸送実績の推移



出所：国内貨物…航空輸送統計年報、国際貨物…空港管理状況調査

国際貨物チャーター便の実績 (2011-2018 年度)

年度	便数	輸入量	輸出量
2011	13 便 (馬 8、牛 2、一般 3 便)	馬・牛：1,097t	一般貨物：401t
2012	20 便 (馬 8、牛 2、一般 10 便)	馬・牛：1,014t	一般貨物：271t
2013	23 便 (馬 14、牛 2、一般 7 便)	馬・牛・一般：1,617t	一般貨物他：255t
2014	24 便 (馬 23、牛 1 便)	馬・牛：2,219t	—
2015	20 便 (馬 18、牛 1、一般 1 便)	馬・牛・一般：1,833t	一般貨物：21t
2016	19 便 (馬 12、牛 1、一般 6 便)	馬・牛・一般：1,334t	一般貨物：180t
2017	13 便 (馬 9、牛 4 便)	馬・牛：1,194t	一般貨物：18t
2018*	21 便 (馬 15、牛 2、一般 4 便)	馬・牛・一般：1,647t	一般貨物：141t

注：2018 年度は 2019 年 2 月 21 日までの実績。北九州市調べ

(9) 空港事業収支

- ・北九州空港における過去5年間の航空系収支（企業会計の考え方を取り入れた収支）は以下のとおり、平均して6億円強の赤字となっている。

空港収支の推移（平成20年度～29年度）

(百万円)

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
営業収益	571	517	646	665	655	665	621	580	575	596
着陸料等収入	519	472	464	482	520	509	483	473	465	487
貸付料収入等	52	45	182	183	135	156	137	107	110	109
営業費用	2,522	2,399	1,855	1,655	1,546	1,569	1,604	1,423	1,460	1,409
空港整備経費	137	258	77	56	49	118	9	71	168	4
減価償却費	1,343	1,231	958	829	724	626	752	508	450	541
環境対策費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費	149	153	152	120	123	120	134	137	141	132
庁費等	625	491	430	415	451	509	510	518	511	547
土地建物借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国有資産所在市町村交付金	250	264	237	233	196	192	189	185	187	176
その他経費	18	2	1	3	2	4	11	4	3	9
営業損益	▲ 1,951	▲ 1,882	▲ 1,209	▲ 989	▲ 891	▲ 903	▲ 983	▲ 843	▲ 886	▲ 814
営業外収益	458	278	214	123	165	419	19	247	402	4
受託工事納付金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方公共団体工事費負担金収入	191	90	65	38	68	136	7	100	171	2
一般会計受入	267	188	149	85	97	283	12	148	232	2
営業外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常損益	▲ 1,493	▲ 1,604	▲ 995	▲ 866	▲ 726	▲ 484	▲ 964	▲ 596	▲ 486	▲ 810

出所：国土交通省「空港別収支」より作成

(10) 利用促進事業

・空港の利用促進について、平成 30 年度の主な取り組み内容は以下のとおりである。

北九州空港における利用促進の取組み（平成 30 年度）

大分類	実施主体	補助対象者	平成 30 年度における具体的な取組内容
① 空港利用者便益の増進	福岡県	バス運行会社	<広域アクセス向上事業> 深夜早朝便に合わせ、福岡市内と北九州空港を直接結ぶアクセスバス運行事業者に対し、運行経費から運賃収入を差し引いた額（赤字額）を予算の範囲内で補助
	北九州空港アクセス推進協議会	バス運行会社 タクシー運行会社	北九州市内へのアクセス利便性向上のため、バス運行会社及び乗合タクシー事業者に対し、運行経費の一部を予算の範囲内で補助
		航空会社	国際線の FIT 旅客向けに、空港連絡バスの片道無料券を配布
	北九州空港利用促進連絡会	—	レンタカー助成、駐車場利用料金補助、ターミナルビル内店舗で使えるお買物券の配布、パスポート取得補助などを実施
	北九州空港振興協議会	—	ターミナルビルと駐車場間の雨天時対策として、貸出用傘の設置を計画し実施予定
② 空港と地域との交流促進	北九州空港振興協議会	実施主体	北九州空港まつりへ協賛金を支出 【平成 30 年度予算：50 千円】
	北九州エアターミナル（株）	実施主体	北九州空港まつりへ協賛金を支出 【平成 30 年度予算：500 千円】
	北九州空港利用促進協議会	実施主体	北九州空港まつりへ協賛金を支出 【平成 30 年度予算：500 千円】
	北九州エアターミナル（株）	—	夏休みのイベントとして、ナイトトリップ IN 北九州空港（小学生とその保護者の親子で夜の空港を見学するツアー）を実施
	北九州エアターミナル（株）	—	北九州空港開港 13 周年感謝祭（旅客ターミナルビル内外で地元物産展・記念コンサートや演奏、警察・消防車両の展示会等）を開催

出所：大阪航空局「航空・空港の利用促進取組調査（平成 30 年 7 月）」

・このほか、福岡県、北九州市、及び苅田町により国際路線の拡大支援および定着支援を目的とした助成金が交付されている。

助成内容

国際路線拡大支援	新規路線就航後 3 年間、1 着陸ごとに助成金を交付
国際路線定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアーバス助成： 旅行商品の造成や販売を促すため、ツアーバス借上料の一部を旅行会社に助成 ・旅行会社への販売奨励金（ボリュームインセンティブ）： 閑散期（6 月、9 月）に多数集客した旅行会社に奨励金を支給 ・レンタカー助成： 個人旅行の集客を図るため、レンタカー代金の一部を助成 ・Wi-Fi 助成： 観光の利便性を高め、周遊を促進するため、Wi-Fi 機器貸出代金の一部を助成

出所：北九州市

- ・各種団体の概要は以下のとおりである。

各種団体の概要

団体名	北九州空港利用促進協議会
設立目的	北九州空港開港により北九州空港の整備と利用促進、並びに需要拡大を図るための取組みを総合的に行うことを目的として、平成18年11月に設立。
事業内容	航空貨物拠点化推進事業 路線拡大支援事業 路線誘致活動事業 広域アクセス向上事業 広報事業
構成団体	福岡県、北九州市、苅田町、北九州空港圏域の自治体、福岡県内の関係団体・経済界、北九州空港関係団体（航空会社）等、計63団体
団体名	北九州空港振興協議会
設立目的	北九州空港の利用促進、利便性や機能の向上を図り、地域の活性化に努めることを目的として、平成13年11月に前身となる「新北九州空港推進協議会」が設立。平成18年3月、北九州空港の開業に伴い名称を変更。
事業内容	北九州空港のPR活動 国内、国際線の利用促進に関する活動 国内、国際線の路線網の充実、拡充に関する活動 北九州空港の機能向上に関する活動 その他本会の目的を達するための必要な活動
構成団体	北九州、京築地域の商工会議所、青年会議所、企業・団体等
団体名	北九州空港利用促進連絡会
設立目的	就航後の路線定着のための取組みを行うことを目的として、平成3年3月に設立。
事業内容	特に北九州市域を圏域とした利用促進策を実施するため、北九州市と苅田町及び周辺地域とで組織している。
構成団体	国土交通省大阪航空局北九州空港事務所、北九州エアターミナル株式会社、北九州商工会議所、苅田商工会議所、北九州空港振興協議会、(株)日本航空、(株)スターフライヤー、日本旅行業協会、福岡県、北九州市、苅田町、行橋市、豊前市、築上町、みやこ町等、計58団体
団体名	北九州空港アクセス推進協議会
設立目的	北九州空港のアクセス利便性の向上と安定的な運行体制の確保を目的としている。平成18年3月に設立。
事業内容	北九州市域と北九州空港間の安定的なアクセス手段を確保するため、バス及び乗合タクシー運行事業者に対する助成を実施。
構成団体	北九州市、北九州商工会議所、北九州エアターミナル株式会社、北九州空港推進協議会

出所：福岡県ウェブサイト、北九州空港振興協議会ウェブサイト、「北九州空港の歩み」等より作成

- ・また、北九州空港は平成29年7月、国から訪日誘客支援空港（拡大支援型）として認定されており、訪日旅客数の更なる増加に向けて、国から支援を受けることとされている。

訪日誘客支援空港に対する主な支援内容

支援期間	平成29年度～32年度の4年間
主な支援	①国際線の新規就航や増便に対し、着陸料の1/2を補助 ②ビル施設の賃料、ハンドリング料などの1/3を補助 ③ビル改修や設備の新規導入などの費用について1/3を補助 ④新規就航・増便分の着陸料を全額免除（3年間）

出所：北九州市港湾空港局資料より作成

2. 空港基本施設の状況

(1) 施設の概要

- 北九州空港は、2,500mの滑走路と大型ジェット機用のエプロンを2バース、中型ジェット機用のエプロンを3バース、小型ジェット機用のエプロンを2バース、貨物機用エプロンを2バース（1つは旅客兼用）、小型機用のエプロンを18バース有している。

空港基本施設の概要

総面積	約 160ha
滑走路	2,500m×60m
着陸帯	2,620m×300m (B級)
誘導路	幅：45m
エプロン	大型ジェット機用 2バース 中型ジェット機用 3バース 小型ジェット機用 3バース 貨物専用 1バース 小型機用 18バース
運用時間	24時間

出所：大阪航空局ウェブサイト、北九州空港供用規程より作成

空港基本施設



出所：北九州市

(2) 着陸料等

・平成31年1月時点で、着陸等の料金体系は下記のとおりとなっている。

着陸料等の料金体系

着陸料	<p>【ターボジェット機】 着陸1回ごとに、以下①と②の合計額。</p> <p>① 25t以下 950円/t 26t～100t 1,380円/t 101t～200t 1,650円/t 201t 1,800円/t</p> <p>② 3,400円×(騒音値-83) EPNdB</p> <p>【プロペラ機】 着陸1回ごとに、航空機の重量を各級に区分して、順次に各料金率を適用して得た金額の合計額。</p> <p>① 6t以下の航空機 一律1,000円</p> <p>② 7t以上の航空機 6t以下 一律 700円 7t以上 590円/t</p>
停留料	<p>停留24時間ごとに、航空機の重量を各級に区分して、順次に各料金率を適用して得た金額の合計額。</p> <p>【23t以下の航空機】</p> <p>① 3t以下 一律 810円 ② 4t～6t 一律 810円 ③ 7t～23t 30円/t</p> <p>【24t以上の航空機】</p> <p>① 25t以下 90円/t ② 26t～100t 80円/t ③ 101t以上 70円/t</p>
保安料	<p>航空運送事業を行うジェット機について、離陸1回ごと</p> <p>有償旅客 103円/人(消費税込) 有償貨物 309円/t(消費税込)</p>
旅客取扱施設利用料	<p>出発及び到着旅客 各1人あたり</p> <p>【国内線】 大人(満12歳以上) 100円 小人(満3歳以上12歳未満) 50円</p> <p>【国際線】 大人(満12歳以上) 300円 小人(満3歳以上12歳未満) 150円</p>
着陸料の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・航空運送事業を行う航空機 : 7/10に軽減 ・国際旅客チャーター便 : 1/2に軽減 ・午後10時以降午前6:59迄に着陸する国際貨物便 : 1/2に軽減

出所：国土交通省ウェブサイトより作成

3. ターミナル施設の状況

(1) ターミナルビル

①施設及び会社概要

- ・旅客ターミナルビル及び貨物ビル等は、北九州エアターミナル株式会社が管理運営している。

北九州エアターミナル株式会社の概要

本社所在地	福岡県北九州市小倉南区空港北町6番																		
設立年月日	平成元年5月1日																		
資本金	35億2400万円(授權資本40億円)																		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主な事業 航空会社などに対してカウンターや事務室の提供及び各事業者には食堂・売店・倉庫などの貸室提供 旅客専用通路、手荷物引渡所、荷捌き所、ゲートラウンジなど、航空会社共用施設の提供 ボーディングブリッジ、到着手荷物用ベルトコンベア、館内放送設備、館内案内表示、館内専用電話など 航空会社および関連事業者共用設備の提供 ・付帯事業 旅行用日用雑貨並びに観光土産品の販売 旅客や送迎客に対して、見学、送迎施設や待合室の提供、公衆電話の管理、その他のサービスの提供 旅客ターミナルビルのロビーや搭乗待合室などの空間に広告媒体を設置しての広告宣伝業 																		
沿革	平成 元年5月：北九州エアターミナル株式会社設立 平成 18年3月：ターミナルビル竣工、供用開始																		
株主構成 (平成30年 12月末時点)	<table border="0"> <tr> <td>福岡県</td> <td>20,000株</td> <td>(28.4%)</td> </tr> <tr> <td>北九州市</td> <td>20,000株</td> <td>(28.4%)</td> </tr> <tr> <td>その他地公体</td> <td>3,800株</td> <td>(5.3%)</td> </tr> <tr> <td>航空会社</td> <td>2,500株</td> <td>(3.6%)</td> </tr> <tr> <td>経済界</td> <td>24,180株</td> <td>(34.3%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>73株主</td> <td></td> </tr> </table>	福岡県	20,000株	(28.4%)	北九州市	20,000株	(28.4%)	その他地公体	3,800株	(5.3%)	航空会社	2,500株	(3.6%)	経済界	24,180株	(34.3%)	計	73株主	
福岡県	20,000株	(28.4%)																	
北九州市	20,000株	(28.4%)																	
その他地公体	3,800株	(5.3%)																	
航空会社	2,500株	(3.6%)																	
経済界	24,180株	(34.3%)																	
計	73株主																		

出所：北九州エアターミナル株式会社 事業報告書より作成

- ・北九州エアターミナル株式会社が管理運営している主な施設は以下のとおりである。旅客ターミナルビルには、飲食店が5軒、売店が7軒入居している。

各施設の概要

施設名	竣工年	構造	延床面積
旅客ターミナルビル	平成18年	鉄骨造 地上3階建	18,426m ²
貨物ターミナルビル	平成18年	鉄骨造 地上2階建	2,876m ²
国際貨物上屋	平成23年	鉄骨造 地上1階建	875m ²

出所：北九州空港ウェブサイト、大阪航空局ウェブサイトより作成

旅客ターミナルビルフロアマップ



出所：北九州空港ウェブサイトより転載

②ビル会社の損益状況

- ・過去5年の損益計算書は下記のとおりである。売上高のうち、施設管理運営事業が約7割を占めている。
- ・売上は、平成26年度には国際線の定期路線が運休したことにより一旦落ち込んだが、近年は国内線の旅客数の着実な伸び、また国際線の旅客数増加に伴い増加傾向にある。また、営業利益率の過去5年間の平均は約7.6%である。

北九州エアターミナル株式会社の損益状況

	(百万円)									
	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
売上高	773	762	755	748	754	812	686	733	800	923
売上原価	15	2	3	2	2	3	3	5	5	6
売上総利益	758	760	752	746	751	809	683	729	794	916
販管費	659	645	667	682	676	710	671	694	737	804
営業利益	99	115	85	63	76	99	12	35	57	112
営業外収益	55	50	55	50	51	26	26	29	29	30
営業外費用	37	26	21	17	13	9	6	2	0	0
経常利益	117	139	119	96	113	116	32	62	86	143
特別利益	44	6	58	70	11	68	40	0	14	28
特別損失	20	9	96	67	32	60	37	0	13	28
税引前当期純利益	141	136	81	99	92	123	35	62	87	143
法人税等	62	57	43	54	28	52	11	26	30	46
法人税調整額	▲3	0	0	10	10	6	▲1	▲4	▲2	▲36
当期純利益	82	79	38	35	55	66	24	41	60	133
粗利率	98.1%	99.7%	99.6%	99.7%	99.7%	99.6%	99.5%	99.3%	99.3%	99.3%
営業利益率	13.1%	15.1%	11.3%	8.5%	10.1%	12.2%	1.7%	4.8%	7.2%	12.2%
売上高成長率	▲7.4%	▲1.4%	▲0.9%	▲0.9%	0.8%	7.8%	▲15.5%	6.9%	9.0%	15.4%
一株当たり当期純利益(円)	1,161.06	1,124.59	541.46	498.43	782.29	930.69	344.46	577.89	844.98	1,888.33

出所：北九州エアターミナル株式会社 事業報告書より作成

(2) 駐車場

①施設及び会社概要

- ・駐車場は24時間営業で旅客ターミナルビルの前面に位置し、普通車約1,780台、大型車4台、自動二輪車30台が収容可能である。また、ターミナルビルすぐ横に障がい者専用駐車場約20台分が設けられている。
- ・独立採算型のPFI事業として株式会社合人社計画研究所が運営しており、事業期間は平成17年5月31日から平成33年3月31日までの約16年間である。



分類	駐車時間毎の料金（税込）	
	入庫～	1時間まで
普通自動車	1時間超～	2時間まで
	2時間超～	24時間まで
	24時間超～	25時間まで
	25時間超～	26時間まで
	26時間超～	48時間まで
	48時間超	※上記と同様に加算
大型車	1時間毎	520円
	24時間	2,080円
自動二輪車	24時間	100円
身障者用駐車場	1時間まで	100円
	24時間	260円
料金割引制度（障がい者割引）	1時間まで	100円
	24時間	260円

出所：北九州空港ウェブサイトより転載、作成

②事業状況（推定）

- ・国が公表している空港別事業収支のうち、非航空系事業の収支から、北九州エアターミナル株式会社の収支を除いた分を駐車場施設の値としてみなした場合、2015～2017年度の事業収支は下記となる。

2015～2017年度の事業収支（推定）

（単位：百万円）

	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	254	260	280
営業損益	43	54	61
経常損益	2	13	21

注：推計値のため実際の収支とは異なる可能性がある

4. 空港島内の施設

(1) 空港島内における計画事業等

- ・ 空港島内において実施済、実施中、実施予定の事業は以下のとおり。

空港島内計画事業

事業名		実施状況
埋立	関門航路浚渫土砂処分事業	2023年頃まで利用予定
	新門司沖土砂処分(Ⅱ期)	2023年以降土砂投入開始予定
空港施設	滑走路延長	国へ要望中
	滑走路端安全区域の検討	方針策定中
	貨物専用エプロン整備	供用開始済
公共施設	新門司建設事務所庁舎整備	供用開始済
	第7管区海上保安部航空基地移転	2020年2月供用開始予定
民間施設	MR J格納庫整備	供用開始済

出所：北九州市資料

